真声会大阪

発　行：京都市立芸術大学音楽学部同窓会 真声会大阪支部
事務局：〒545-0004　大阪市阿倍野区文の里4-12-25　樋口博行 方
Tel／Fax　06-6624-3425
郵便振替口座　00960-4-47824　真声会大阪支部
真声会大阪支部　検索
http://senri-music.com/shinseikai-osaka/

大きな成果をもたらした
「ブリリアント・コンサート 2015」を終えて

真声会大阪支部　コンサート企画・運営主担：
副支部長　大冨栄里子（28期pf）

秋も深まりつつある去る10月30日、兵庫県立芸術文化センター小ホールにて、「ブリリアント・コンサート２０１５」が開催されました。今回は平日夜の公演でしたが、昼とはまた違った趣あるコンサートとなりました。

いつもながらに、それぞれの出演者が個性豊かな魅力あるステージを繰り広げて下さり、盛会のうちに終えることができました。

プログラムは井上さんのテノールで開幕、佐野さんの美しいピアノ伴奏に支えられて見事な歌声を披露されました。好調な滑り出し、大きな拍手に今日のコンサートの成功を予感させてくれました。

続く場野さん母娘によるヴァイオリンとピアノのデュオでは脈々と受け継がれるDNAを実感、今も昔も変わらぬ京芸のレベルの高さを示して下さいました。

前半の最後、ドイツ留学から帰国されたばかりの中村さんのピアノはパッション溢れる演奏でその成果を発揮、熱気高まる中、休憩タイムに入りました。

後半は再びピアノ独奏、大渕さんの知的でエレガントなショパンの調べにホールは一転、しっとりとした空気に包まれました。続く松田さん、小﨑さん、紺谷さんによる仲良しトリオでは、心の通い合ったアンサンブルを聴かせていただきました。

そしていよいよ大詰め、河村さんの風格のあるスケール大きな歌声が武田さんの柔軟なピアノ伴奏に乗って聴衆を魅了し、会場は大いに盛り上がる中で華やかに幕となりました。

終演後のアンケートからは「素晴らしかった。」「とてもグレードの高いコンサート」「全身情熱が伝わり心に響きました」「バラエティーに富んでいて楽しめた」などが圧倒的に多く、一方で「日本語の歌も聞きたかった」「MCなどで曲の解説も欲しい」といったものもありました。

ステージの裏では今回もリハーサルからたくさんの同窓生が駆けつけて支えて下さいました。同窓会のコンサートは表と裏が一体となって同窓生の縦横の繋がりを深め、親睦を高めていくことが第一の目的です。が、同時に社会に向かって発信していく、社会に貢献できるコンサートとして存在していきたいと願っております。

そのためにはまず同窓生の皆さんの協力が不可欠なのです。同窓生全体で支える会としてさらに充実させていけるようこれからも努力していきたいと思っています。

再　録

真声会創立60周年記念

ブリリアント・コンサート 2015

2015年10月30日(金)19:00開演

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

入場料 2,000円

出演者と曲目

井上　元気 (テノール, 59期・院2回生)

佐野　良太 (ピアノ, 院1回生)

O.レスピーギ　古い歌に寄せて

F.チェスティ　愛しい人の周りに

G.ビゼー　花の歌 ～オペラ「カルメン」より

場野まりな (ヴァイオリン, 59期)

場野　公子 (ピアノ, 26期)

E.ドホナーニ　ヴァイオリン・ソナタ 作品21 第1・3楽章

中村　太紀 (ピアノ, 57期)

I. ストラヴィンスキー　ペトルーシュカからの三楽章

第一楽章 ロシアの踊り

第二楽章 ペトルーシュカの部屋

第三楽章 謝肉祭の日

大渕　雅子 (ピアノ, 49期)

F. ショパン　アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22

松田　美紀 (クラリネット, 27期)

小﨑恵理子 (ヴィオラ, 30期)

紺谷　晶子 (ピアノ, 27期)

M.ブルッフ　8つの小品 作品83より　Ⅰ Ⅲ Ⅶ

河村さと子 (ソプラノ, 16期)

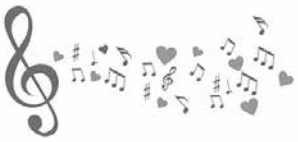
武田　直子 (ピアノ, 48期)

R.ワーグナー　夢 ～「ヴェーゼンドンクの5つの歌曲集」より

R.ワーグナー　歌の殿堂 ～楽劇「タンホイザー」より

G.プッチーニ　この殿堂には ～オペラ「トゥーランドット」より

G.プッチーニ　歌に生き、愛に生き ～オペラ「トスカ」より



(当日のプログラムから)

ブリリアント・コンサート 2015
ご　挨　拶

本日は、真声会大阪支部主催の「ブリリアント・コンサート2015」にお越しいただき、まことにありがとうございます。

今年は、京都市立芸術大学・音楽学部同窓会「真声会」が発足して60年目となります。真声会は全国に支部を設け、それぞれの地域の音楽活動に、独自のスタイルで積極的に参画しています。本年は、当大学・音楽学部第29期の卒業生である、佐渡裕さんが芸術監督を務める「兵庫県立芸術文化センター」にて、大阪を中心に幅広く活動する大阪支部が主催し、「創立60周年ブリリアント・コンサート」を開催することになりました。

私たちが卒業した芸術大学は、明治13年(1880)に京都府画学校として創設され、それ以後、京都市立美術大学へと発展し、また、昭和27年(1952)に発足した京都市立音楽短期大学と合体して、昭和44年(1969)に京都市立芸術大学へと組織形態を拡充してきました。京都の伝統文化の土壌に育まれながら、一貫して芸術の制作・教育・研究を推進してきたことになりなす。当大学は芸術系大学としては全国で最も長い歴史を持つ大学です。そして、8年後には、JR京都駅の西側地区に大学キャンパスを総合移転することが決まりました。また、その前の、2020年には部分移転を行い、全面移転前に、近畿、日本、世界の芸術愛好家との交流が始められるように、京都市としての新たな芸術文化活動が開始される予定です。

今回のコンサートは、早くから実行委員会を作り、第28期の卒業生である、委員長の大冨栄里子さんを中心に準備検討を重ねてこられました。少し欲張った企画となりましたが、バラエティに富んだ内容となるよう、16期生から59期生という幅広い卒業生が同じステージに集い、ソロあり、アンサンブルありの豊かな演奏を繰り広げます。それは、お互いに音楽表現で刺激し合うというスリリングな面もある半面、同じ学び舎で音楽の表現・研究に勤しんだという共通点をどこかで見出していただけるのではないかと思います。

本日、ご多忙にも関わりませずご来聴下さいましたすべての皆様がたと、本演奏会の開催に当たりご協賛いただいた、新響株式会社、三木楽器株式会社をはじめ、多大なお力添えを賜りました関係各社、関係者に、深く感謝とお礼を申しあげます。

そして、今後とも京都市立芸術大学に対して、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

京都市立芸術大学音楽学部同窓会　真声会大阪支部

支部長　**大村　益雄**

― 大阪支部世話役一同 ―

飯田真基、大冨栄里子、大西多恵、大村益雄、小﨑恵理子、金森重裕、康　瑛、阪口　楓、信多仁子、柴田千恵子、住本紗恵、竹内惠子、中島慈子、中林節子、西岡仁美、西川香代、樋口博行、平本直規、本庄ちひろ、松村佳奈、宮北昌子、宮﨑真理子、森池日佐子、雪原典子 (五十音順)

「ブリリアント・コンサート2015」に出演して

開場を待つお客様

まだ現役大学院生で未熟な私ではありましたが、このような素敵なコンサートで演奏させて頂き、本当にありがとうございました。

当日の先輩方皆様の作ってくださった雰囲気は、とてもあたたかく心地良いものでした。私よりはるかにたくさんのことを経験された方々からのあたたかいエールほど、心強いものはありませんでした。

演奏に関しては、良くも悪くも現状の私でしかありませんでした。これから大学院を修了し、社会へと飛び出して参りますが、背伸びすることなく日々精進し一つ一つ挑戦を続けて行こう、そんな決意のきっかけをこの演奏会で頂けたように思います。

井上 元気（59期・院2回生、テノール）

この度はブリリアント・コンサートに出演させていただき、ありがとうございました。京芸卒業生として、母と共に演奏できたことをとても嬉しく思います。この機会に私の大好きなドホナーニのヴァイオリン・ソナタを演奏できたのはとても有意義でした。ドホナーニという作曲家の日本における知名度は決して高くありませんが、今回の演奏を期にその名前と素敵な音楽が皆様に伝われば幸いです。これからも新たな音楽との出会いを楽しみに私自身も研鑽に励み、また皆様の前で演奏できることを願っております。

場野 まりな（59期、ヴァイオリン）

定演のオーケストラでヴァイオリンを弾いている友人が羨ましくて娘に習わせたときは、まさか親子で真声会のコンサートに出演することになるとは思いませんでした。

思いがけず声をかけて頂き貴重な経験ができました。細やかなお心配りにも助けられ本当に楽しいコンサートでした。ありがとうございました。

場野 公子（26期、ピアノ）

ドイツ留学から帰国して以来、約３年ぶりとなる日本での久々のコンサートということで、どこか感慨深く、また改めて気付かされることの多かった本番でした。イタリアでリサイタルがあった際、リハーサルのためにホールに入ったら誰もおらず、一人でピアノ出しからすべてをやり、ピアノの蓋を開けたら、それを支えるための棒が取れていて最終的に応急処置として頑丈そうな棒をピアノの内部に突っ込んで本番を終えたことなどを思い返すと、日本の完璧なまでの環境整備はもとより、何から何までご尽力くださったたくさんの運営委員の方々の手厚いサポートがあったからこそのコンサート成功であるということを身に染みて実感致しました。真声会創立６０周年記念コンサートという大変貴重な舞台に御招きくださり心より御礼申し上げます。

中村 太紀（57期、ピアノ）

今回は演奏する立場で、初めてブリリアント・コンサートに参加させていただきました。裏方で支えてくださった方々も、演奏された方々も一緒に、京芸の同窓生として一体となって頑張ってまいりましょう！という温かい皆さまの想いを強く感じ、その思いをこれからのブリリアント・コンサートや京芸の同窓生の方々に伝えていきたいなと思いました。聴きに来て下さった方々をはじめ、お世話になりました皆様、ありがとうございました。

大渕 雅子（49期、ピアノ）

井上元気さん、佐野良太さん

スタッフ、お世話役

３人の男性出演者、大の仲良し

私は日頃は、小学校の非常勤講師で1年生の補助教員をしています。

ブリリアントコンサートの当日も2時間目まで算数プリントや漢字の宿題の丸付けをしてから演奏会会場へ足を運びました。

午前中とは全く違うモードで、ピリッとした空気の中リハーサルが始まりました。

本番も慣れ親しんだ仲間と大変楽しく、集中して演奏することが出来ました。

楽屋では年代は違っても『同窓』という安心感のある空間で、これまた楽しかったです。

色々なモードがある分、なかなか切り替えが難しいところがありますが、私としては本当に楽しめた日でした。

コンサートのお世話役の方々、本当にありがとうございました。

松田 美紀（27期、クラリネット）

この頃「いやぁ、人様の前で演奏するのは、何歳になっても緊張するしかなわんなぁ…。」と、いつも思うようになりました。

そんな矢先に「10月30日の大阪支部主催のコンサートへの出演、前向きに考えて頂けませんか？」とお話を頂きました。怖くないと言えば嘘になりますが、ありがたい事ですのでメンバーの方々と話し合い「芸文のホールで是非演奏させて頂こう！」という事になりました。

ところが蓋を開けてみてびっくり。まあ、優秀できら星の如く輝いている華やかな経歴の若者が殆どなのです。私達のようなエエ歳の私生活にいろいろあったいわく付きの…といった方はおられず。

夏頃から三人で何度かリハーサルを重ねましたが、あっという間にコンサート当日になりました。他の方のリハーサルも拝聴しましたが、技術的にも音楽的にも申し分無い方ばかりで、自分がこんなとこに居ていいんだろうか？ と、どんどん不安が募ります。

＊本番撮影が禁じられたために、楽屋裏でのスナップとなりました。
雰囲気をお汲み取りください。（撮影：住本紗恵ほか）

馬野公子、まりなさん親子

トリオの松田さん、紺谷さん、小﨑さん

中村太紀さん

大渕雅子さん

河村さん、武田さん

いよいよゲネ。真声会の世話役さんがたくさん客席でバランスを聞いて下さいます。

「もっとこっち向いてみ。そや。」「今度はこの曲やってみ。」「はい、あと5分です。」などチームワークも素晴らしく手厚いサポート。

戻った楽屋では、世代にある程度バラツキはあるものの、大学時代にお世話になった先生のお話などで盛り上がりました。

ドキドキしながら本番も終え、その内容は置いといて、今はいい機会を与えてもらい良い経験をさせて頂いたなぁ、スタッフの皆様には企画の段階から何度も話し合いを重ねられご苦労をかけてしまったなぁ、当日もすっかりお世話になったなぁ、と感謝の気持ちでいっぱいです。

私達三名にとりまして、正直音楽は心の支えです。これからも懲りずに精進と演奏活動を続けて参ります。ありがとうございました。

小﨑 恵理子（30期、ヴィオラ）

この度はブリリアント・コンサート2015に出演させて戴き、有難うございました。何よりも、当日を迎える為に様々な準備をしていただき、当日もきめ細やかにサポート、進行をしてくださった役員の方々に感謝しております。

諸先輩方や若々しい院生の方々と一緒に同じ舞台を共有できたのは、幸せな時間でした。初対面の方でも「京芸同窓」という一つのワードだけでお話がどんどん繋がり、絆や人の輪を改めて感じることが出来ました。

歳を重ねても厳しい世界ですが、でもこのようなコンサートに出演する機会をいただきましたことを、心より御礼申し上げます。

紺谷 晶子（27期、ピアノ）

←終演後の華やいだロビー

→スタッフ、お世話役

楽屋での打ち上げ！

今までこの小ホールでは、ドイツリートなどの小品ばかりを演奏してきましたが、今回、このホールの天井の高さやたっぷりとした空間を生かしたスケールの大きな曲を歌うことができ、大満足でした。それに加えて、何十歳も若い後輩たちに交じって、同じステージで演奏できたことは、とても幸せでした。今後は、才能にあふれた後輩たちの演奏活動の支援をしながら、真声会の発展のためにお役に立てたらと思っています。ありがとうございました。

河村 さと子（16期、ソプラノ）

楽屋での打ち上げ！

今回は伴奏での出演でした。ここ何年かで環境も変わり、子育てをしながらでの出演だったので不安でしたが、とても楽しんで演奏する事ができました。

このコンサートでは、いろいろな年代の方々が出演されているので、楽屋でも楽しくお話でき貴重な時間を過ごせました。

みなさんの演奏もとても素敵で、また演奏できる機会があれば、ぜひ出演したいです。

ありがとうございました。

武田 直子（48期、ピアノ）

総会予告

サロン・コンサート
出演者募集中！

今年の大阪支部年度総会が、
次の通り予定されています。
ご予定の上、こぞってご参加ください。
記念催事は一般公開です。
どなたでもお誘いください。（入場無料）

日時／**5月29日（日）午後2時**

会場／**北区西天満　モーツアルト・サロン**

第1部　記念催事
① サロン・コンサート2016
② 座談会「音楽家の果たす役割は?」（仮題）

第2部　総会議事

第3部　懇親会
〈向かいの「珈琲苑」に移動して、4時30分ごろから〉

＊サロン・コンサートの出演者を募集しています。
スタインウェイのフルコンあり、キャパ約80名。
アンサンブルも可、種目を問いません。10分～15分程度。3月末までに090-8232-0780(大冨さん)へ。奮ってご参加ください。

＊総会議事は、1年のまとめ、新年度活動について、世話役・役員選出　など

＊懇親会は、珈琲とサンドウイッチで。会費1,500円

詳しくは、4月中旬、改めてお知らせします。

地下鉄の中で歌えますか？

原　由莉子
（60期、pf）

学校の前のベートーヴェン像

ウィーンでの生活をはじめて４か月。ちょっとは慣れてきたかな～と油断するや否や、目の前にそびえたつドイツ語の壁や、日本とのカルチャーショックに頭をぶつける、まだまだ大パニックの毎日です。

大学では、教授によるピアノソロのレッスンに加え、伴奏法、室内楽、二台ピアノ、バロック音楽、現代音楽、と毎日怒涛のようにレッスンがあるのですが、どの曲にしてもどの先生にしてもいつも言われることは、「メトロノームみたいにインテンポで弾くな」「アーティキレーションせえ」「フレーズつくれ」の三点のみと言っても過言ではありません。

はじめは、あまりにも基礎の段階の注意しかされないことに、こんなんでスキルアップできるんだろうかと歯痒く思ったり、私はそんな初歩的なことから直していかないといけないレベルなんだと自信をなくしたりしていました。

そんなモヤモヤした気持ちを抱えたまま迎えた大晦日の夜、ウィーン交響楽団によるベートーヴェンの第九演奏会を聴きに行った時のことです。演奏に感銘を受けたのはもちろんですが、終演後のロビーや、ましてや地下鉄の中のあちこちで、帰路に就く聴衆が「フロイデーシェーネー♪」と【歓喜の歌】を口ずさんでいてびっくり！でも「あぁ、これが音楽の都かぁ」と心から幸せな気分になったことがありました。そう、これがウィーンなのです。ウィーンの人々にとって音楽は自然に口からこぼれるものなのです。

びっくりするほど話は変わりますが、例えば大阪が舞台のテレビドラマがあるとします。関東出身の俳優陣が関西弁のセリフで演技しますが、ど～おしても関西弁がサマになっていない俳優が一人でもいたとしたら…ストーリーや脚本、俳優の演技力以前に、その変なイントネーションが気になって気になって、最終的に「なんか腹立つ！許せん！！」とチャンネルを変えてしまう、というのは関西の皆様なら誰もが経験したことがあるのではないでしょうか。

話を戻しまして、私が「メトロノームみたいに弾くな」「アーティキレーションせえ」「フレーズつくれ」と耳にタコができる程言われるのは、まさにドラマでいう「方言指導」の部分にあたるのだと思うのです。セリフの句読点やアクセントがおかしいと、もうまずそこを直さないと次へ進めない。その証拠に、レッスンで「この部分は大きく弾くの？それとも小さく？」と先生に尋ねると、「どっちでもいいよ。どっちでもキレイだよね！」と言われました。正しい音楽の土台があるからこそ、表現は後から自然についてくるものなのです。そしてその土台＝西洋人の息遣いを普段の生活の中で肌で学べる、というのは、他の何にも代えがたい留学の醍醐味だなと思います。

かねてよりたくさんの音楽家が吸ってきた伝統ある空気は、確実に今に受け継がれています。長い冬が終わって春が来るころには、人前で堂々と歌えるウィーン人の血が私にも少しだけ流れてるといいなぁと思いながら、練習に励む日々です。

2016.1.25ウィーンにて

＊（編集注）原さんは、昨春卒業後、ウィーン国立音楽大学ピアノ科に在籍

楽友協会ホールにて

INFORMATION インフォメーション

♪レ・ミゼラブル＜演奏会形式＞
3月24日(木)14:00と18:00の2回／兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
*総監督・森池日佐子(18期声)、ジャヴェール役・萩原寛明(37期声)、マリウス役・下林一也(56期声)、樋上眞生(51期pf)ほか、管弦楽：高曲伸和指揮・フロット室内管弦楽
*各回3,000円
*問い合わせ：ヴォイス・アーツ事務局(加藤)090-8466-3404

♪Poetica Piano Concert 13th
4月10日(日)14:30／京都府立府民ホール アルティ
*三森尚子(26期)、古谷泉(26期)、信多仁子(32期)ほか
*バッハ=ブゾーニ：シャコンヌ、ショパン：スケルツォ 2番、グリンカ=バラキレフ：ひばり、バラキレフ：ドゥムカ、チャイコフスキー：ナータワルツ　ほか
*1995年より、マックス・エッガー先生のマスタークラス修了生を中心として発足した研究会「ポエティカ」、2004年から開催しているコンサートです。残念ながら先生は2008年に91歳でお亡くなりになりましたが、その後もコンサートは続けています。
*前売り2,500円　当日3,000円
*問い合わせ:yshinoda1616@ezweb.ne.jp(信多)

♪バッハ 平均律クラヴィーア曲集 全2巻全曲演奏会
48人48色
5月1日(日)　第1部12:30,第2部16:00／ロームシアター京都サウスホール
*第1部=大畑博貴(29期)、松村佳奈(31期)、佐藤裕美子(39期)、大渕雅子(49期)、若井亜妃子(53期)、阿部裕之(客演)ほか、全24名が出演。第2部=蜂谷葉子(29期)、神代稔子(31期)、田村幸造(36期)、姫野真紀(38期)、古川五巳(客演)ほか、全24名が出演。
*バッハ平均律クラヴィーア曲集を一人一曲ずつ弾き繋ぐという恒例の演奏会の第三回目。岡崎の旧京都会館が生まれ変わった「ロームシアター京都」のオープニング事業特別演奏会として開かれる。
*第1部、第2部それぞれ2,000円(当日2,500円、高校生以下は各500円引き)、通し券3,000円(前売り・一般のみ)、いずれも完全入替制、全自由席
*チケット取扱い 075-231-0538 旭堂楽器店ほか
*問い合わせ：075-762-5549 音楽空間ネイヴ

♪芝令子&名畑ゆかり Piano duo&solo
～ファンタジー～ロシア・フランス音の彩り
5月13日(金)19:00／兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
*名畑ゆかり(23期pf)、姉・芝令子(元・京芸ピアノ科講師)
*スクリアビン：幻想曲、ラフマニノフ：鐘、組曲第二番、ラヴェル：マメールロア、オンディーヌ、ドビュッシー：喜びの島、ビゼー=アンダーソン：カルメンファンタジー
*今回のコンサートはロシア究極のロマンティシズムとフランスのエレガンスをお届けできればと思っています。
*3,000円
*問い合わせ：雪原典子 090-9096-5967
yukihara-kz@asa.email.ne.jp
*真声会大阪支部後援

♪ソワレの会コンサート ～歌曲の夕べ～
5月26日(木)19:00／兵庫県立芸術文化センター小ホール
*大原佳美(34期sop)、上木裕子(34期sop)、中西金也(49期Bar)、信多仁子(32期pf)ほか
*F.Poulanc：月並み、G.Faure：月の光、ネル、イスパーンの薔薇、M.Ravel：博物誌　ほか
*ソワレの会は、歌手とピアニストが一緒に歌曲を研究していく会で、ベルリン在住ピアニスト益子明美氏をディレクターとして、ディクション、ワークショップ、コンサートの活動を行っています。
*2,000円
*問い合わせ:yshinoda1616@ezweb.ne.jp(信多)

おめでとうございます

三井ツヤ子さん（16期声）京都市文化功労者に選ばれる

京都市は2015年度の市文化功労者に三井さんをはじめ、能楽の豊嶋三千春氏、日本画の畠中光享氏ら各界7人を選び、昨年11月17日に市役所にて表彰式が行われました。三井さんは、京都芸大で多くの後進を育成したことが高く評価されました。

訃　報

岩淵龍太郎先生 死去

ヴァイオリニストで母校京都芸大教授を務められ、初代京都コンサートホール館長も務められた岩淵先生が、1月5日、呼吸不全のため亡くなられました。享年87歳。先生は、大阪支部の総会にもしばしばお顔を見せてくださいました。ご冥福をお祈りします。

*この欄への情報の提供、エッセイ、留学記など、投稿をお待ちしています。表紙記載の事務局か、メールは、kshige39@r2.dion.ne.jp へ。

編集後記

はや3月、でも、気候の不順に加えて、信じ難い事件・事故の多さに、驚きと恐怖の毎日です。政治も何をやってるのかと不信が募るばかり。やっぱり「音楽」が満ち溢れる世の中にしなければ、ですよね。　(k)